

その日、夢子は部長と一緒に取引先へ打ち合わせに行った。

打ち合わせが終わり外へ出たのはもう辺りが暗くなり始めた頃。

電車で行っていたため、会社からはそのまま帰っていいと許可が出ていた。

「一番混んでる時間に帰ることになってしまいましたね」

電車内。

仕事帰りであろう人たちに揉まれながら、部長が苦笑混じりに小声で言った。

部長と夢子もぴったりとくっついてしまっていて気まずくはあったが、夢子もなんとか顔を上げて笑った。

「そうですね、普段使わない線だから知らなかったです」

「夢子さんにご飯でも食べてから乗ればよかったかな？」

今度からはそうしましょうか」

部長は夢子よりかなり歳上だが、部下や後輩にも敬語で接してくれるタイプの人だ。

物腰も柔らかく、怒ったことなど見たこともない。社内でも評判がよかった。

実際これだけ混んでいてもニコニコと話しかけてくれる。夢子の立場上気を遣わなければいけない相手がそうあってくれてかなり助かっている。

「夢子さんは普段外食はどんなところで食べるんですか？」

「うーん、そうですね…」

小声で進む当たり障りのない会話。

その途中、ふと夢子は体に違和感を覚えた。

(ん…?)

何かがお尻に触っている。

「混雑のせいで当たっている」感覚じゃない、「当てられている」ような。

(手、だよね、これ…)

夢子のスカートの上からお尻に確かに指のようなものが沈む。

それは微かに押し当てられながら上下左右に動いている。

(マジか…ちょっとやめてよ、しかも上司といるときに)

一瞬顔をしかめた夢子だったが、今度は胸に何かが当たってぴくりと体を震わせた。

横にいる男のスマホを持つ手が夢子のほうへ傾いて、スマホの角を夢子の胸の部分に当てているのだ。

それが、こす、こす、と頂点を撫でるように動く。

(え、わざとだよね…?)

横にいる男。

上司と話しながらも視界には入っているがスーツの若い男のようだ。

体が他の乗客と重なってしまっているため上司からそれは見えていないようだった。

反応しない夢子に、お尻を触る手は次第にあからさま

になっていく。

すり、すり、すり……♡

お尻の輪郭をなぞり、大きな手のひらで軽く掴み、指先がくすぐるようにあちこちを滑る。

それと同時に胸に当たっている男のスマホも夢子のスーツの上から乳首を探り当てるように、

こす、こす、こす♡

と往復し始めた。

(やめろ～…)

上司とのたわいもない会話は進む。

始めのうちは我慢していたのに、夢子の顔は次第に引き攣っていった。

それに気付いているのかいないのか分からないが、部長は何も言ってこない。それが幸이었다。

次第にその二つの手は大胆になっていった。

お尻を撫でる手は二つになり、スカートを巻き込みながら撫で回す。

スマホも気のせいだとは言い逃れもできないほど乳首を狙って押し込まれていた。

（乳首、勃っちゃってる…。こんなところで気持ちよくなりたくないのに）

そう思ってもスーツの中で大きくなった乳首を鈍く挟まれるたびに体はピクリと反応してしまう。

すりすり、すり…♡すり♡すり♡

こす♡こす、こす、こす♡こすこすこす♡♡

自分の意思に反して、満員電車で他人と密着しながら夢子の体は熱くなっていた。

（……あ！？）

熱くなっていたところに、足を風が通り抜けていったかと思えば。

それはお尻を撫で回していた手が夢子のスカートを捲り上げたからだった。

驚いて顔を下に向けてもちょうど部長の体と密着してしまっていてその様子は見えない。が、両手で布をたくし上げられ下着を晒されているようだ。

しかもすぐに男の手が足の間に差し込まれた。

(うそ、やめてやめて、そこは触らないで)

身動きの取れない夢子に逃げる術はない。

人差し指だろうか、指の腹がクロッチの部分に当たってそれが前後に動く。

(嘘でしょ、どこまでやる気?)

その指は何度かそこを往復して、するっ♡と足の隙間をすり抜けると。

ぴたっ♡♡

ぴたっ、ぴたっ♡♡

とクリトリスの部分をタップするように軽く叩いた。

「……ッ、」

(や、ば)

小さな粒を探り当てられ刺激されて、顔をしかめてしまった。

「夢子さん、どうしました？」

「い、いいえ、なんでもないです」

半笑いで首を振る。

そこで部長との会話は途切れた。

正直助かったと思った。こんな触られ方をしながらそれがバレないように会話を続けることは難しそうだ。

こすこす♡♡こす、こす、こすっ♡

乳首に当たるスマホの角も遠慮がなくなって。

ぴたっ♡ぴたっ♡ぴたっ♡ぴたっ♡

クリトリスをタップする指も早くなる。

(勘弁してよお、気持ちよくしないで…)

そこで急に、クロッチ部分を後ろへずらすように下着を引っ張られた。

一瞬下着を切られでもするのかと思ったがそうではなかった。

厚みのあるクロッチとその縫い目の部分から解放されたクリトリスに、指が当たり、

(うわ…！)

薄い布越しに捕えられたクリトリスが、

カリカリカリカリカリッッッ♡♡♡

と引っ掛けて♡

「…ッッ！！」

「夢子さん？」

急に与えられた強い刺激に体がガクッと落ちたけれど
その指は止まらない♡

カリカリカリカリカリッッッ♡♡♡

カリカリカリカリカリッッッ♡♡♡

（や、やめて、そのため、クリカリカリするのため…！
体のビクビクとまんな…、……………う、あ、やばい、こ
れ……え♡♡）

カリカリカリカリカリッッッ♡♡♡

カリカリカリカリカリッッッ♡♡♡

「……っ、う♡……ッ」

カリカリカリカリカリッッッ♡♡♡

カリカリカリカリカリッッッ♡♡♡

しつこく繰り返されるそれに夢子の下半身が引き攣っていく♡

下腹部を力ませ足を開き、肩に掛けていたバッグを握りしめ♡

(イっちゃう、部長の目の前で、電車の中で…！)

カリカリカリカリカリッッッ♡♡♡

カリカリカリカリカリッッッ♡♡♡

(あ、イク、イク…♡イク……ッ！！♡♡)

「……ッッ！♡♡♡」

ビクッ♡♡

ビクッ♡♡♡

人に揉まれた状態で、夢子は体を何度か痙攣させた♡
止めようと思って止まるものではない、夢子は目をぎゅっと瞑って恥ずかしさに耐える♡

「夢子さんどうしました？」

「い、いえ…大丈夫です」

またそう部長に言いながら、夢子の下半身では下着が下ろされていた♡

男の手は止まらない♡

下着は下ろされスカートを捲り上げ、その手は夢子の腰を抱えるように前へ回されたのだ♡

（ちょっと…！さすがに部長に見えるって！）

その手は夢子のクリトリスまで伸びてきて左手で皮を押さえた♡

背後の男にそうされながら、これまで乳首を狙ってスマホを当てていた男が夢子のジャケットのボタンを外していく♡

（どこまでやるつもりなの、こんな狭いところで、……
……あ、）

ふと、部長の目線が下がっているのに気付いた♡

その目は明らかにジャケットをはだけさせられている夢子の胸元に向けられている♡

(見られた…、でも、助けてくれるかも)

夢子が淡い期待を抱いたその瞬間、皮を剥かれたクリトリスに男の指先が触れて♡

ちゅくちゅくっ♡♡

ちゅこちゅこちゅこちゅこっ♡♡♡

くすぐるように引っ掛かれてしまった♡♡♡

「…〜〜〜ッッ！♡♡♡」

布越しじゃない、直接刺激されると体が飛び上がってしまう♡♡

ちゅこちゅこちゅこっ♡♡♡

こちゅこちゅっ♡♡ちゅくちゅくっちゅくちゅくっ♡

♡

「…ッ、……う、……ッ、う、うッ♡♡」

男の手はまた休まずクリトリスをいじり続ける♡♡

いったばかりで敏感になってしまっているクリトリスをそうされて、夢子の腰は反射的に前後左右に逃げるようくねくねと動いた♡

そのせいで体が他の乗客に当たってももう気を遣うこ

とができない♡むしろ気付いてこれを止めてほしいとすら思う♡♡

夢子が唇を噛み必死に声を耐えていると、後ろから耳元で囁かれた♡

「まんこぐっちょぐちょだね♡クリちゅこちゅこされるの気持ちいいんだ♡」

ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこっ♡♡♡

「……、ち、ちが、あっ♡」

「君がイクまでずっとしててあげる♡いったばっかの真っ赤なクリ、爪先でちゅこちゅこしてあげるからね♡」

「やめ、…ッ♡」

ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこっ！！♡♡

更に小刻みになる指♡

そしてその間にジャケットのボタンは全て外され、横にいた男はシャツの上から今度は人差し指で乳首を探り始めた♡♡

先端に指を食い込ませ、

ぐりぐりぐりっ♡♡♡

と上下に動く♡♡

「…ッ♡……ふ、…ッ、う♡……～～っ、…ッ♡」

……部長は、表情を変えずその夢子を見ていた♡

夢子が暴れてしまってできた空間で、部長にはその体が今ははっきりと見えている♡

ジャケットをはだけさせられ、シャツの上から乳首を乱暴に挟まれ♡

背後からクリトリスの皮を剥かれ、真っ赤になった小さな粒を引っ搔かれる♡♡

(なんで部長助けてくれないの、)

目の前にいる上司に縋りたいのにその目で拒絶されているようだった♡

噛んだままの唇は開いてしまったら声が漏れそうで開けない♡

「腰ガクガクしてるよ♡もう一回イこう?♡」

ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこっ!!♡♡

「う、……うう、……♡……ん、ッ♡」

ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこっ!!♡♡

男の言う通り、夢子の体はまた訪れた絶頂の予感に震

えていた♡

抱かされている腰、かろうじて下着の引っ掛かっている
足、バッグを握る手♡

体温が一気に上がる♡

(イク、またイカされちゃう、部長が見てるのに！)

ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこっっ！！♡♡
「ふ、…う” う、う、……ッ♡…………あ、う♡」

思わず顔を上げたらこめかみを汗が流れていった♡
そのこめかみに、乳首に指を押し付ける男が唇を寄せ
てきて、

「こんなところでイけるなんて変態じゃん♡♡」

そう言いながら、

ぎゅ〜〜〜〜っっっ！！♡♡♡

突然乳首を強く挟むから♡♡♡

乳首から全身へビリビリと快感が走り抜けていく♡♡
♡

(あ、だめっ、これだめ、イク……！！♡♡♡)

「…………んゝ んう…ッゝ ！！♡♡♡」

ガクガクッ♡♡

必死に声を噛み殺しながら、夢子はまた達してしまったのだった♡♡

——脱力した体はもう自分ではまともに立っていられなかった。

後ろの男に抱かれるように支えられ、力の抜けた手からバッグが落ちそうになる。

それを、目の前の部長が受け取った。

「こんなところでイってしまうなんて、もしかして夢子さんは元からそういう趣味でもあったんですか？」

「……、え？」

「バッグ預かりますよ、もっと触ってもらいましょう」

夢子の手から滑り抜けていくバッグ、部長はそれを荷

物棚の上に置いた。

夢子は目を大きく開き部長の表情を伺っていた。

この状況に全く動じず、しかも男たちを手伝うように夢子の手を解放した部長が、何を考えているのか分からなかった。

「ぶ、ぶちょ、」

「乳首も直接触ってほしいでしょう？」

その部長の手が夢子のシャツのボタンへ伸びてきた。
上から順にゆっくり外していく。

そして背後の男に背中を預けなんとか立っている夢子の足元へ、また別の男が潜り込んできた。

気付けば夢子の周りにはほんの少し空間ができています。

そして夢子は気付いた。

信じられないことに、周りは男ばかり。

その男たちは夢子に視線を集中させていた。

「なに、これ…」

ぽつり、呟いたけれど誰からも返事はない。

シャツのボタンを全て外され、部長は夢子の背中に腕を回しブラジャーのホックまで外してしまった。

足元の男も夢子のスカートの中に潜り込んで下着を抜き取った。

「夢子さんのいくときの顔、とても可愛かったですよ」
「は…？」

部長の言葉に呆然としていると、

べろっ♡♡♡

スカートの中でクリトリスを思いっきり舐められた♡
♡

「……っ、うあ」

べろっ♡♡

分厚い舌で弾くように叩かれ♡

れろれろれろれろっ♡♡れろれろれろ……♡♡♡

それから舌先で上下に擦られ♡♡

ちゅっ♡♡ちゅっ、ちゅっ、ちゅう♡♡

小さく吸われる♡♡

「ふ、……ッ、う♡う、う」

こんな状況なのに二度もイカされたクリトリスはまた快感を拾ってしまう♡

しかもいつもより腫れて神経が研ぎ澄まされている気さえする♡♡♡

その男は夢子の反応に気をよくしたのか、今度はクリトリスに舌を張り付けたまま離れなかった♡♡

ずり♡♡れる、れる♡ずりずり♡♡

「あ、……あ♡♡は、…っ♡」

クリトリスを押し潰したまま舌のざらつきで撫で回し、ときどきクリトリスをひねるように動きを回転させる♡
♡

ずりずり♡れるれるれる♡♡ずり…♡♡ずり…♡♡

「……う、ん、…ッ♡……ん♡」

クリトリスから熱いものが腰へ広がってくすぐったい♡♡

夢子がまたもじもじと腰を動かしていると♡

「あ……、♡♡」

横から、今度は誰のものなのか分からない二本の手が

伸びてきてそれぞれ夢子の胸に触った♡♡♡

ブラジャーはたくし上げられ露出した胸を包まれ、指の隙間に乳首を挟まれ♡♡

「ひ、……う、♡♡」

（だめ、それやめて、クリだけでも気持ちよくなっちゃってるのに乳首までされたら…♡♡♡）

クリトリスを舐め擦っている男が夢子の腰を掴んだ♡
♡

体も背後から夢子の体を支える男に腰を強く抱きしめられている♡♡

（だめ♡♡絶対だめ♡♡いま乳首しないで、そんなことされたら……、）

ぎゅううううっっ♡♡♡

「ひ、………ツツツ！！♡♡♡♡♡♡」

両方の乳首が、胸を包む指にきつく挟まれて♡♡
それから、

ぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐり♡♡♡♡

こねくり回すように二本の指が交互に動いた♡♡

「ひ、あ……ッ♡♡♡あ♡♡♡や、め、…ッあ♡♡♡あ
…ッ！♡♡♡」

その指が動くたび、何度も体中が快感を駆け抜けてい
って体がぶるぶると震える♡♡

それは刺激されているクリトリスまで響いて、男が同
時に

ぢゅううううう………ッッッ♡♡♡

そこを搾り上げるように吸うから♡♡

「やだやだやだ…！♡♡♡だめ、……ッ、だ、…め、
………ん、っ♡♡♡」

(またイっちゃう…！！♡♡♡)

ぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐり♡♡♡♡

ぢゅうううっ♡♡♡ぢゅうううううッ♡♡♡

「ん……ッ、ううう” ううう” う” ……………っっっ！！
！♡♡♡♡♡」

その瞬間、また大きく体が跳ねて足が床を蹴った♡♡
夢子は喉をそらせ汗をしたたらせながら、せめて大きな声はあげないように歯を食いしぼる♡♡

連続で味わってしまった絶頂に首を赤く染め汗を滴らせる夢子に、周りの男たちはごくりと唾を飲んだ♡♡

「すごく素敵ですよ、夢子さん」

はっ、はっ、と浅い息を繰り返す夢子の顔を部長が掬った♡

呆けたままのその顔へ部長の顔が近づいて♡そのままキスされてしまった♡♡

「……う、あ、あ♡♡♡」

力なく開いたままの唇を吸い、舐められ、食まれて♡
♡

繰り返す絶頂に頭の働かない夢子は素直に受け止めて
しまった♡♡

自分に何が起きているのか分からない♡♡♡
でも連続でイけてしまうほど気持ちいいことだけは確
かだ♡

そしてこれはまだ終わっていない♡♡♡♡

「挿れていいよな♡♡」

誰かの声がして夢子の腰を掴み直した♡♡

「さあ夢子さん、ここからが本番ですよ」

部長もキスの合間にそう言って夢子の両手を握る♡
指の間の薄い皮膚が絡むその繋ぎ方にすら、今は感じ
てしまう♡♡

スカートは腰までたくし上げられ、掴まれた腰を可能
な限り上へ向かせられると♡♡

ずぶっ♡♡♡♡♡

「……あ、……あ、うそ…」

太いものが入ってきた♡♡♡♡

それが入ってきて初めて、自分のそこがぐずぐずに濡れきっていたことに気付いた♡

そのせいで難なく受け止めてしまう♡♡知らない男のちんぽを♡♡♡

電車の中で始まってしまったそれが恐ろしくて夢子は思わず後ろを振り返ろうとしたけれど、咎めるように部長に唇に吸いつかれ叶わなかった♡

「はあ～まだ狭くて具合いいわあ♡♡♡お姉さんまず一発目、いくよ～♡♡♡」

(一発目…?)

夢子が男の発言に怪訝に思う暇もなく♡♡

たんっ♡♡たんっ♡♡たんっ♡♡たんっ♡♡たんっ♡♡
♡

男の抽挿が始まってしまった♡♡♡

「っ、ん♡……ッう♡……、ん♡ん、あ♡」

強い力で固定された腰に肌がぶつかるように、男の腰を打ちつけられる♡♡

たんっ♡♡たんっ♡♡たんっ♡♡たんっ♡♡たんっ♡♡
♡たんっ♡♡

「ふッ、あ、あ♡♡あ…っ、あ♡♡……ん、ん、…ふ、
っ♡♡」

キスされていても、そのせいで声が漏れてしまう♡♡

「きもち～♡♡♡♡お姉さんのおまんこ良すぎる♡♡」

タンッ！♡♡タンッ！♡♡タンッ！♡♡タンッ！♡♡
タンッ！♡♡タンッ！♡♡

男は煽られるようにピストンを強めた♡

タンッ！♡♡タンッ！♡♡タンッ！♡♡タンッ！♡♡
タンッ！♡♡タンッ！♡♡

腰を小刻みに前後させ夢子の膣壁を擦るように♡♡

タンッ！♡♡タンッ！♡♡タンッ！♡♡タンッ！♡♡
タンッ！♡♡タンッ！♡♡

「んうっ、う”♡♡……ッ”う、ぶ♡♡ん、んッう”♡♡
♡♡」

押し上げられる声は部長にそれごと吸われ酸欠になり
そうだ♡♡♡

それでも一定のリズムで動くちんぽに夢子は目を細める♡♡♡

(なんで…♡♡♡気持ちよくなっちゃってる♡♡電車の中で知らない人にちんぽ挿れられて、部長にキスされて♡♡♡こんなのだめなのに♡)

「お姉さんも気持ちよくなる？」

「あ…ッ♡♡♡」

腰を掴んでいた男の手が背後から夢子の両胸を掴んだ♡

主張させるように根元を掴み乳首を突き出させる♡

「ほら、誰か乳首してやれよ」

男は周りの「誰か」に呼びかけた♡

夢子もうなんとなく分かっていた、周りは全てグルなのだろう♡♡

キスしている視界の端、すぐに両側から男が二人自分の横へ来て屈んだのが見えた♡♡

「乳首すげー勃起してんじゃん」

「舐め甲斐あるわ♡♡♡」

背後からちんぽを打ちつけられ、それに合わせて小さく振動する夢子の、尖ったままの乳首を♡♡♡

ぶちゅっ♡♡れるれるれるれるれるれるるっ♡♡
♡

吸って、舌先で細かに舐め回し♡♡♡

ぢゅるっ♡♡ぢゅ……っ、ぼ♡♡♡ぢゅっっぼ♡♡
♡ぢゅッッ、ぼ♡♡♡

強く吸い上げて解放し、また強く吸い上げて解放し♡
♡それを繰り返す♡♡♡

「ふあああ” ツ♡♡♡♡♡♡♡」

耐えられなかった♡♡

部長と背後の男に軽く拘束されたまま、胸を掴まれ主張させられた乳首も舐めまわされ吸われ♡♡

夢子は部長の手を握ったまま声を上げてしまう♡♡♡

その夢子に腰を振る男も笑った♡

「えっろい女…♡♡♡♡♡」

とちゅっっ！！♡♡とちゅっっ！！♡♡とちゅっっ！
！♡♡とちゅっっ！！♡♡とちゅっっ！！♡♡とちゅっ
っ！！♡♡

そう呟いた男の腰が早く、強くなる♡♡♡

男の手はもう腰を掴んでいない、固定されていないの
に、夢子はいつの間にか自ら腰を突き出してしまっている♡♡

男のちんぽの角度に合わせ奥まで届くように♡♡♡

とちゅっっ！！♡♡とちゅっっ！！♡♡とちゅっっ！
！♡♡とちゅっっ！！♡♡とちゅっっ！！♡♡とちゅっ
っ！！♡♡とちゅっっ！！♡♡とちゅっっ！！♡♡と
ちゅっっ！！♡♡とちゅっっ！！♡♡とちゅっっ！！♡
♡とちゅっっ！！♡♡

「あ、あ”っ♡♡♡あ♡♡…ッ♡♡♡う、は、っ♡♡♡
アっ♡♡♡あぁッ♡♡♡」

力強いちんぽにおまんこを気持ちよくされ♡♡

ぢゅう……♡♡♡れるれるれるれるるっ♡♡♡れ
るっ♡♡♡れるれるれるれるる……♡♡♡

「あ…ッ♡♡♡あ、…ッあ♡♡♡アっ♡♡あっ♡♡♡…
ッは、ア♡♡♡」

尖った乳首は吸い上げられたまま口内で細かに舌で転
がされ♡♡♡

ぢゅ…っっぱ！♡♡♡ぢゅっつ、ぽ！♡♡♡ぢゅっつ
ぽ！♡♡♡ぢゅっっぱ！ぢゅっっぱ！♡♡♡

「……う、うう♡♡♡……ッう、あ♡♡♡は、ア……
ッん♡♡♡んっ♡♡♡」

もう片方をきつく吸われ、音を立てて解放し、またき
つく吸われ、解放された♡♡♡

(きもちいい♡♡きもちいい♡♡♡キスされておちんぽ
で突かれて乳首両方吸われるのきもち♡♡♡なにこれ
♡♡♡)

夢子が懸命にそれらの快感を受け止めているとまた違
う誰かが足元にしゃがんだ♡♡

垂れ下がるスカートをくぐり、その男は夢子のクリト
リスの皮を剥き♡♡♡♡♡

「これできもちよーくイけるだろ♡♡♡♡」

カリカリカリカリカリカリカリカリ……！！！！♡
♡♡♡♡♡

手加減もなく生のクリトリスを引っ搔くから♡♡♡

「ふっぐ、う” ううううううう………！！！！♡♡♡♡
♡♡♡♡」

夢子はピン♡♡と爪先立ちになり、部長の手を握り締めながらまた絶頂を迎えた♡♡♡

(やばい、どうしようこれ、気持ちよくなっちゃだめなのに♡止めなきゃいけないのに♡♡でも、)

「可愛かったですよ、夢子さん。次のちんぽ行きましょ
う」

「…、え」

ずちゅっ♡♡♡♡♡♡♡♡

「う……ッ” ♡♡♡♡」

さっきとは違うちんぽの感触♡♡♡

形も大きさも反り方も違う、別のちんぽが夢子のおまんこにねじ込まれた♡♡

ずぷっ♡♡ずぷっ♡♡ずぷっ♡♡ずぷっ♡♡ずぷっ♡♡ずぷっ♡♡
♡ずぷっ♡♡

顔も見えていない知らない誰かがもう腰を振っている♡
♡♡

「う♡♡♡あ、あっ♡あ”♡♡あ♡♡♡……うう”♡
♡」

イったばかりのおまんこに無理やり快感を叩き込むよ
うに♡♡

ずちゅっ！♡♡♡ずちゅっ！♡♡♡ずちゅっ！♡♡♡
ずちゅっ！♡♡♡ずちゅっ！♡♡♡ずちゅっ！♡♡♡
「あ”っ♡♡♡あ、は♡♡あっ”♡♡…ッ”♡♡♡…～
～ッ”♡♡♡」

ずちゅっ！♡♡♡ずちゅっ！♡♡♡ずちゅっ！♡♡♡
ずちゅっ！♡♡♡ずちゅっ！♡♡♡ずちゅっ！♡♡♡
規則的に動く腰♡♡

摩擦されるおまんこが快感を拾ってまた締め付けよう
としている♡♡♡

(…きもちよく、なっちゃん♡♡♡イってもイってもず
っときもちよくされちゃん♡♡♡)

腰を振る男はその衝撃で押し出されてしまう夢子の体を羽交い締めにした♡♡

脇から腕を通し両肩を抱え込む♡

そうされると余計に胸が突き出され、男の体がぶち当たる衝撃で激しく揺れた♡♡

ばちゅっ！！♡♡ばちゅっ！！♡♡

「…は、……ん” ツ♡♡♡んう” っ♡♡う” ツ♡♡♡」

夢子の体を固定したことで男は更に強く腰を打ちつけ始める♡♡♡

ばちゅっ！！♡♡ばちゅっ！！♡♡ ばちゅっ！！♡

♡ばちゅっ！！♡♡

「あ” …ッん” ♡♡♡あ♡♡♡はッあ” ♡♡♡ア” っ♡♡♡」

押し出される声ももう耐えることができない♡♡

……快感に喉を反らし顔を上げたことで、周りの光景が夢子の視界に飛び込んできた♡

知らない男たちの壁♡それが夢子を取り囲んでいた♡♡

その誰もが欲情した顔をし中心の夢子を見守っている♡

中には自らの股間を慰めるように揉んだり擦ったりし

ている男もいた♡♡

(こんなに見られてたんだ…♡何回もイっちゃったところ見られてた♡♡)

間近にいる何人かの男と目が合う♡

その男たちは汗を滴らせ顔を上気させてちんぽに揺れる夢子に飛びついた♡♡

「あ…ッ♡♡♡」

一人は揺れる胸を掴み、また乳首を突き出させる♡♡♡

それから、ぢゅぶっ♡♡と乱暴に吸い上げ、更に乱暴に、べるっ♡♡べるるっ♡♡♡べちっ♡♡べちっ♡♡♡べるるるるっっ♡♡♡と舌で弄んだ♡♡♡

「う、あ…ッ”♡♡♡あ、ふッ、う♡♡♡う”、うう”♡♡♡♡」

鋭い刺激に胸をそらすとまた別の男は胸の揺れを制するように乳輪ごと乳首を挟んで♡♡ぐりぐりぐりぐりぐりぐりっ♡♡♡とこねくり回す♡♡♡

「ひ、い”っ、……ッ”ッ”♡♡♡♡」

そのまま指は乳首を上下し、柔らかい乳輪は搾るように、硬く尖った乳首は痛くないぎりぎりの力で押し潰し

たまま左右に捻った♡♡♡

そうされながらもちんぽは常に夢子の中を往復している♡♡♡♡

ばちゅっ！！♡♡ばちゅっ！！♡♡ ばちゅっ！！♡
♡ばちゅっ！！♡♡

「うゝ アゝ、あ♡♡♡あ♡♡♡…ッ」♡♡♡あ、アうゝ
ッ♡♡♡」

べるるるッ♡♡♡べちっべちっべちっ♡♡べるるる
るる……ッ♡♡♡♡べちっ♡♡♡べちッ♡♡♡べち
ッ♡♡♡

「は…ッ」ん♡♡ん♡ んううう……ッ♡♡♡ん♡ っ♡
♡♡う、あ♡♡♡」

ぐりぐりぐりぐり…♡♡♡こりこりこりっ♡♡こりこ
りこりこりっ♡♡♡ぐりぐりぐりぐりぐり…♡♡♡♡

「あ、あゝ アゝ っ♡♡♡あゝ っ♡♡♡アゝ ッ♡♡♡ア…
ッ」♡♡♡」

「夢子さん、気持ちいいですか？」

正面にいる部長にそう言われ、快感でいっぱいになっ
てしまった頭で夢子は答えた♡♡♡

「……いい、です♡♡♡…ん、…あ、あッ♡♡気持ちいい…っ♡♡♡♡」

「とてもいい顔してますよ」

満足そうに笑った部長の手が夢子のクリトリスへ伸びてきて♡♡

親指と人差し指で皮ごとクリトリスをぎゅっ♡♡と掴んだ♡

「あ♡♡♡あ、…♡♡♡」

それだけで心臓が跳ねる♡♡

そこへ与えられる気持ちいい刺激を想像してしまう♡♡

あれがあればイける♡♡もう何度もイっているのにきつとまたイけてしまう♡♡♡

望み通り、部長の手はクリトリスをしごくように根元から先端を往復した♡♡♡

ぢゅこっ♡♡ぢゅこっ♡♡ぢゅこっ♡♡ぢゅこっ♡♡
ぢゅこっ♡♡ぢゅこっ♡♡

「う、は……ツツ♡♡♡あ”♡♡♡あ、あ”♡♡♡あ…
〜〜〜〜ツツ”！♡♡♡」

背後から羽交い締めになれながらちんぽで強く突かれ、

揺れる胸を二人の男が舌と指で刺激し、クリトリスは上司にしごかれる♡♡♡

大きな快感に夢子がだらしなく口を開け声を上げると、また誰かがその口を塞ぐように唇を押し付けてきた♡♡♡

「んッ、う、ぶ…ッ♡♡♡」

声と息まで飲まれて、苦しくなって顔をそらそうとしてもその男に頭を掴まれてしまう♡♡♡

その上別の誰かが夢子の耳をしゃぶってきた♡♡左右ともしゃぶられ、舐められ、耳元で水音が響く♡♡

ばちゅっ！！♡♡ばちゅっ！！♡♡ ばちゅっ！！♡♡
♡ばちゅっ！！♡♡

「ん” ツ” ♡♡♡う♡♡♡ぶ、ツ♡♡♡う” う♡♡♡う
ツツ” ♡♡♡」

べちっ♡♡♡べちっ♡♡♡べちっ♡♡♡……べるるる
るるるるる♡♡♡♡♡♡

「ふッ” う” ううう……ッ” ♡♡♡♡……あ、う” ♡♡
んうううっ♡♡♡」

こりこりこりこりこりこりっ♡♡♡ぐりぐりぐりぐり
ぐりぐりっ♡♡♡♡♡

「……～～～ッ” ♡♡♡あん” んん♡♡♡あッ” ♡♡♡
……あ、う” ♡♡♡ん” ツツ♡♡♡」

ぢゆる、れろっ♡♡ぢゅぶっ♡♡♡ぢゅぶっ♡♡♡ぢゅろろろっ♡♡♡

「ふ、……あ、ッ、あ♡♡♡あ、……ッ、……♡♡♡う、ん♡♡♡ん”♡♡♡」

(すごい♡♡♡ぜんぶされてる♡♡♡♡♡♡ぜんぶきもちよくなっちゃう♡♡♡♡♡♡いくっ♡♡♡いくっ♡♡♡おなか、きゅ〜〜ってしてる……！♡♡♡♡♡♡)

膝がカクカクと痙攣し始める♡♡♡♡

耳が食べられるみたいにしゃぶられ外の音が遮断されているようで♡

自分の声の音量も分からないままに夢子は、

「……………ッ♡♡♡いく♡♡♡いっちゃん…ッ♡♡♡」

そう宣言すると♡♡♡♡

バチュバチュバチュバチュバチュバチュバチュバチュバチュ
ッッッッ！！♡♡♡♡♡♡

それに応えるようにピストンは激しいものになった♡♡

その勢いに夢子の中の快感も一気に膨れ上がる♡♡♡
♡♡

「い、く……ッ”♡♡♡♡♡いくうううう”う”う”っ
っ！！♡♡♡♡♡」

ビクビクビクッ♡♡♡

男たちに囲まれて、夢子はまた昇り詰めた♡♡♡♡♡
♡

涙で視界が歪む♡♡

部長がその夢子を抱きしめ、あやすようにその胸に夢子の頭を抱えると優しく髪を撫でた♡♡

「次のちんぽですよ」

優しい手つきとは逆の容赦ないその言葉に、夢子は部長の胸に頬を押し付けたまま目を見開く♡

誰かが夢子の片足を持ち上げるように抱えた♡
体が斜めに倒れて、不安定な姿勢に夢子は部長にしが

みつく♡

そこへ♡♡

……ごちゅっ！♡♡♡♡♡

「ん……ッ” お♡♡♡♡♡」

夢子の体のことなど気遣いもしない勢いでちんぽが突き入れられた♡♡♡♡♡

ごちゅっ！♡♡ごちゅっ！♡♡ごちゅっ！♡♡
ごちゅっ！♡♡ごちゅっ！♡♡ごちゅっ！♡♡

「うん” っ♡♡♡お♡♡……ッ♡♡♡っ” ♡♡」

ごちゅッッ！！♡♡♡ごちゅッッ！！♡♡♡ごちゅッ
ッ！！♡♡♡ごちゅッッ！！♡♡♡ごちゅッッ！！♡♡
♡

「……ッッお♡♡♡お”、ん♡♡♡♡ん”、ッ” ♡♡♡
♡」

ゴチュッッ！！♡♡♡ゴチュッッ！！♡♡♡ゴチュッ
ッ！！♡♡♡ゴチュッッ！！♡♡♡ゴチュッッ！！♡♡
♡ゴチュッッ！！♡♡♡

「ふッ” お” ♡♡♡お” ♡♡♡ッお♡♡♡んお” っ♡♡

♡…ッ” おっ♡♡♡」

あっという間に激しくなるピストン♡♡

夢子はなんとか片足で踏ん張って部長にしがみついているので精一杯だ♡♡♡

ゴチュッッ！！♡♡♡ゴチュッッ！！♡♡♡……ゴチュゴチュゴチュゴチュゴチュゴチュッッッ！！♡♡♡♡♡♡♡

「ッん” うう” ツッ♡♡♡♡……ンッ” ♡♡お” 、お、ほ……ッ” お♡♡♡♡」

男は夢中で腰を振る♡♡

射精することしか考えられないような一方的で乱暴なガン突きピストン♡♡♡♡

それなのに夢子もお腹の奥から快感が全身へ広がっていくのを感じていた♡♡

「夢子さんももっと気持ちよくならないと」

部長の胸に押し付けられていた夢子の顔は十分に快感に呆けていたのに♡♡

部長の手が夢子の乳首をぎゅっ♡♡と挟んで、薄い皮膚を伸ばすように下へ引っ張り♡♡♡十分に伸びた先で、

こりこりこりこりこりこりこりっ♡♡♡♡♡

と左右へ捻る♡♡♡♡♡

「ふおッ♡♡♡おおおッ♡♡♡……………〜〜〜〜〜
ッッッ♡♡♡♡♡」

乳首からビリビリと弾けるような鋭い快感が頭の方へ
走っていく♡♡

夢子は漏れ出る声をなんとか収めようと部長の胸を顔
を埋めた♡♡

ゴチュゴチュゴチュゴチュゴチュゴチュッッッ！！
♡♡♡♡♡♡ゴチュゴチュゴチュゴチュゴチュゴチュッ
ッッ！！♡♡♡♡♡♡

こりこりこりこりこりこりこりこりこりこりこりっ♡
♡♡♡こりこりこりこりこりこりこりこりっ♡♡♡♡

「……ッ！！♡♡♡♡……………〜〜〜〜ッ”っ”ん”、…
ッ”ッ”！！♡♡♡♡♡ん”う”うう……ッ”っ”！！
！♡♡♡♡」

けれどそれだけじゃなかった♡♡♡♡

誰かの手がもう片方の乳首を摘んでいる♡♡

その手は乳首を上下にしごくように

しこしこしこしこしこしこしこしこしこッッ♡



と勃起乳首を摩擦し、

また、他の誰かが大きく開かれた夢子の足の間に顔を埋め、クリトリスに皮ごとしゃぶりつき♡♡

ぢゅぶぶぶぶぶッッッ♡♡♡ぢゅぶぶぶっ♡♡ぶぶぶぶぶぶぶぶぶ……ッッッ♡♡♡♡

音を立てて激しく吸いたてる♡♡♡♡

「う、お” ……ッ” ♡♡♡♡……ッ” 、……ッッ” っ”
! ♡♡♡♡♡う、ん” んん、ッ” ♡♡♡♡ん” ~~~~
ッ” っ” ♡♡♡♡」

「ああ、もう出る、出すぞ」

男の呻くような声が聞こえて、ちんぽは更に身勝手に動いた♡♡♡♡

ゴチュゴチュゴチュゴチュゴチュゴチュゴチュゴチュ
ゴチュゴチュゴチュゴチュッッッ!!!! ♡♡♡♡♡
♡

追い詰められるようなピストンに夢子の中の快感もまた膨れ上がる♡♡♡♡

それが弾けるように夢子の体も激しく揺れた♡♡

「ん” ……ふ、う” ツツ” ♡♡♡♡♡ん” 、ツあ” ♡
♡♡♡♡んオ” ♡♡♡♡♡………~~~~~ツ” っ
” ツ” ！！！！♡♡♡♡♡」
「出る…！」

ばつ………！！♡♡♡♡♡

男は深く重なるように腰をぶつけた♡♡
夢子の中で何度も跳ねる男のちんぽ♡
けれど夢子の乳首とクリトリスを愛撫する男たちの手
はやまない♡♡♡♡

こりこりこりこりこりこりこりこりこりっっ♡♡♡♡し
こしこしこしこしこしこしこしこしこっ♡♡♡♡
ぢゅぶぶぶぶぶツツ♡♡♡♡ぢゅぶぶぶ、ぶぶぶぶ
ぶぶぶぶぶぶ………！！♡♡♡♡

「ツ” う” ♡♡♡♡ん、んん…ツ” ！！♡♡♡♡………ふ、
お” っ” ♡♡♡♡お” ♡♡♡♡や、め、………ツ” ♡♡
ツく、あ” ♡♡♡♡♡♡」

終わってくれない快感♡♡♡♡

どうすることもできない夢子の腰をまた誰かが掴んだ
♡♡♡♡

その男に片足を抱えられ持ち上げられると今度は床か
らもう片方の足も離れてしまった♡
そしてすぐに♡♡♡

ぐぼっ！！♡♡♡

その不安定な状態でちんぽで突かれ♡♡♡♡

「あゝ、ア……ッ”♡♡♡♡♡」

悲鳴のような声は部長のスーツに押し付けられ消えた
♡♡♡♡

スーツはもう夢子の涙と涎で染みを作っている♡

ずるるる……ッ♡♡♡バツンッッ！♡♡♡♡♡

ずるるる……ッ♡♡♡バツンッッ！♡♡♡♡♡

「……ん”、おッ”♡♡♡♡お”♡♡♡♡」

男は浮かせた夢子の腰に深く突き刺すようにちんぽを
押し込んで、膨らんだ亀頭で膣壁を挟りながら引いて
いく♡♡

ずるるる……ッ♡♡♡バツンッッ！♡♡♡♡♡

ずるるる……ッ♡♡♡バツンッッ！♡♡♡♡♡

「……お”♡♡♡♡あ、……ッ”♡♡♡♡」

足が床につかなくて、その快感をどこへも逃せない♡



おまんこも乳首もクリトリスも、男たちに捕らえられたままなのだ♡♡♡♡

「乳首もクリもそんなに気持ちいいの？おまんこすげえ締まってるよ♡♡」

「…………ッ”♡♡ふ、……う♡♡♡♡…………う、う”♡♡♡♡」

「この締まってる所に無理やり突っ込むの、最高…♡♡」

バツンッ！！♡♡♡バツンッ！！♡♡♡バツンッ！！

♡♡♡バツンッ！！♡♡♡バツンッ！！♡♡♡

また容赦ないピストンが始まった♡♡

バツンッ！！♡♡♡バツンッ！！♡♡♡バツンッ！！

♡♡♡バツンッ！！♡♡♡バツンッ！！♡♡♡

男は夢子の足を限界まで開かせるようにきつく足を抱いて、フェラチオされているクリトリスの下、ぐずぐずに濡れた穴をひたすら突く♡♡♡

バツンッ！！♡♡♡バツンッ！！♡♡♡バツンッ！！

♡♡♡バツンッ！！♡♡♡バツンッ！！♡♡♡

「〜〜〜〜ッ”ッ”ッ”！！♡♡♡♡…………ッほ、お”♡

♡♡おゝ んっ♡♡んッ” ……！♡♡ん” うんん…ッ！♡♡」

バツンッ！！♡♡♡バツンッ！！♡♡♡バツンッ！！
♡♡♡バツンッ！！♡♡♡バツンッ！！♡♡♡

■続きは製品版にて♡